



夫木和歌抄

和歌抄
1765
2



39

119

阿利4
號 1765
卷 2

119



文木和斎抄巻第二

春部一二

六行分トル

奇數頁

改頁

四行分トル

鶯

霞

餘寒

殘雪

春水

若草

春霜

三行分トル

鶯

三行分トル

新暦二年一巻之合中約之連房は

ふるの妻うらうらに

文治三年一頁

若中初

書とていふもわきまひ

同五年一頁

書の初め初め

家業物

わく玉入年の初め

百首

日

まゝのいふまゝののりたきのおのりたき
遠係三年一りたき百首 後成女

あつたまのいふまゝののりたき
文治三年女御入道同書

文治三年女御入道同書

あつたまのいふまゝののりたき
後徳 後徳寺なまは

正治二年百首 三条入道なまは

あつたまのいふまゝののりたき
花もいふまゝののりたき

侍従

あつたまのいふまゝののりたき

家集

清輔納長

あつたまのいふまゝののりたき
あつたまのいふまゝののりたき

正治二年百首

武子の親王

あつたまのいふまゝののりたき

あつたまのいふまゝののりたき
あつたまのいふまゝののりたき

侍従

色 花の香をよ

花の香

色

色 花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

花の香をよ

花の香をよ

花の香をよ 花の香をよ

天徳四年一月裏合歌 惠威

統後撰春上

妙

白

判

云

は

な

ま

ま

ま

ま

ま

あはれなるをいふはまことさなる真

~~~~~

三十一 夢はあはれなるをいふはまことさなる真

歌ふ

伴

三十二 うつらひの思ふはまことさなる真

宵はあはれなるをいふはまことさなる真

齊

三十三 かりりしものもや果しりし言の葉もはまことさなる真

家集

伴

三十四 かりりしものもや果しりし言の葉もはまことさなる真

三

五

合

の

り

し

る

も

あはれなるをいふはまことさなる真

~~~~~

七

条

合

の

り

し

る

三十五 かりりしものもや果しりし言の葉もはまことさなる真

あはれなるをいふはまことさなる真

平

秋

奉

花のうらとあけそなれ^ば花の^にけ^には

緑線條^條弱不^條勝^條言^條 大に^條子^條里

新拾^下雜

うらとあけそなれ^枝め^枝も^枝えん^枝の^枝き^枝ひ^枝ら^枝ら^枝は^枝

謙 徳^謙云

あけそなれ^ぬめ^ぬの^ぬう^ぬら^ぬと^ぬあ^ぬら^ぬは^ぬ

天^延延^延の^延九^延月^延の^延裏^延山^延守^延の^延あ^延ら^延さ^延

漢^漢京^漢元^漢祐^漢

あけそなれ^せめ^せの^せう^せら^せと^せあ^せら^せは^せ

或^或不^或辱^或門^或よ^或お^或飯^或心^或ゆ^或の^或は^或き^或の^或声^或と^或や^或ん

惠^惠慶^惠は^惠保^惠

あけそなれ^わめ^わの^わう^わら^わと^わあ^わら^わは^わ

中^中勢^中の^中志^中山^中守^中よ^中わ^中て^中去^中今^中十^中有^中う^中と^中う^中ら^中に

言^言心^言

日^日イ

あけそなれ^まめ^まの^まう^まら^まと^まあ^まら^まは^ま

家^家集^家

日^日イ

あけそなれ^ため^たの^たう^たら^たと^たあ^たら^たは^た

建^建仁^建え^建の^建新^建佐^建の^建合^建 世^世を^世た^世た^世臣^世

あけそなれ^かめ^かの^かう^から^かと^かあ^から^かは^か

言^言心^言 御^御

川集 卷

中務々々

其のふくすのやうの言も今もいふ言もよもあらん

治和二年右大臣家百首

皇太后御後始

行さうふれうすらん其ののりうのやうの言のこゑ

やういふ言もいふ言もいふ言もいふ言もいふ言も

ひのりこふれうすらん其ののりうのやうの言のこゑ

下巻

くら凡の氷海ふるさとのいふ言もいふ言もいふ言も

西原百首

余 其の言もいふ言もいふ言もいふ言もいふ言も

久安百首

其の言もいふ言もいふ言もいふ言もいふ言も

皇太后御後始

其の言もいふ言もいふ言もいふ言もいふ言も

同平五社百首

其の言もいふ言もいふ言もいふ言もいふ言も

治和二年右大臣家百首

其の言もいふ言もいふ言もいふ言もいふ言も

寶治二年百首之詞 評御

あねれと縁うの平のりたうらよておきか

文無元年七社百首 日

あさか 約り秋のとうたうてま日けりみさののりにきそなく

又永六年毎百首中

きのことうりやうとまわらるる君に花咲されたみけり

ふ首中

鶯のまらうけくよまぬと花のあうえそあふり

歌子歌 名人

あいらのいさめあうえよまきつしすじききうたか

三三—四八 多依部 中務のみ

くうがとの花のあうえのききととあふし美のあねれ

美日社約百首 安部流四系

まぬよるのれやうらうてしあうすよあきめき

歌子歌 先抄

續後拾春上 春さぬらんよ若つらういとあねれよさして知え

毎約中きうとまらと大百大後文うら

源伸正

きのかうらうよあうらねさめらうあねれあふし

遠長六年二首を合書

あふしあふし

風春上

さうらそまろつていふのめいんはたのあわらまは

正二位左大臣

後二位行成

かきくまのひくしとまろいふまのまのひくし

去今一中一

人丸

まのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

千五百

御院

まのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

御院

花のあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

百

後二位

まのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

家

原

まのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

遠保

兵衛

まのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

左大臣

まのあつたのあつたのあつたのあつたのあつた

文治

りしに^五雑波の春^{はる}ありて^白たつてけ^ける^るく^くき^きる^る
白古^白花^花文^文太^太後^後也^也 ^御

千五百番^歌 ^合 即^即文^文佐^佐氏^氏

柳^柳えの^のむ^むの^のむ^むひ^ひを^をゆ^ゆり^りし^しも^もあ^あの^のう^うら^らい^いし^しん^ん
遠^遠也^也八^八幸^幸一^一百^百首^首文^文合^合 ^歌 ^前古^古太^太朝^朝元^元花^花野^野也^也
^言 ^御

長^長の^のう^うら^らい^いし^しん^んむ^むき^きの^の根^根
^は ^言 ^御 ^言 ^御

柳^柳の^のう^うら^らい^いし^しん^ん ^丸

^万十^十 ^万十^十 ^万十^十
は^はの^の根^根 ^はの^の根^根 ^はの^の根^根
ま^まの^の根^根 ^まの^の根^根 ^まの^の根^根

^万十^十 ^万十^十
は^はの^の根^根 ^はの^の根^根 ^はの^の根^根
ま^まの^の根^根 ^まの^の根^根 ^まの^の根^根

^万十^十
久^久安^安三^三年^年 ^歌 ^合 ^花 ^中 ^景 ^景
一^一 ^一

一^一

ま^まの^の根^根 ^まの^の根^根 ^まの^の根^根

柳^柳の^のう^うら^らい^いし^しん^ん

打^打の^の根^根 ^打の^の根^根 ^打の^の根^根

柳^柳の^のう^うら^らい^いし^しん^ん

柳^柳の^のう^うら^らい^いし^しん^ん

文^文治^治六^六年^年 ^一 ^百首 ^白 ^古 ^太 ^朝 ^元 ^花 ^野 ^也

あ^あの^のう^うら^らい^いし^しん^ん柳^柳の^のう^うら^らい^いし^しん^ん

老若 ともあひ五十首合

後鳥羽院文内

山崎やなまのあひまうけそむかひれつるまはこゑ

家業竹林堂

源仲正

山崎やなまのあひまうけそむかひれつるまはこゑ

天平五年正月十日詠

中納言

又そまののすのりやーとまのこころいふとまのこころ

山崎

まはるゝあひまのあひまのあひまのあひまのあひま

あひまのあひまのあひまのあひまのあひまのあひま

あひま

あひまのあひまのあひまのあひまのあひまのあひま

あひま

花山院

あひまのあひまのあひまのあひまのあひまのあひま

あひま

あひま

あひまのあひまのあひまのあひまのあひまのあひま

あひま

あひま

あひまのあひまのあひまのあひまのあひまのあひま

袖中子
神中子
日
御新約伝
美三
秋

あつらひとく
財
御新約伝
今

御新約伝
御新約伝

あつらひのやうに
御新約伝

御新約伝
御新約伝

まふれ
御新約伝

御新約伝

現存
六
御新約伝

建治とひ
御新約伝

御新約伝

大うとの浦ら
御新約伝

御新約伝

御新約伝

凡春上
御新約伝

御新約伝

御新約伝

うらやま
御新約伝

御新約伝

御新約伝

御新約伝

うらやま
御新約伝

お山門の大臣歌合を傳給る

鴨書

のまゝにたゞらぬに抄りててうまいたやうに抄りて
洞院橋政歌百首
兼中御定歌
みうけのまのうまにたててあつた海にうまのまのま

千五百首歌合

参議 兼中御定歌

二歌百首歌合

後京極橋政

兼中御定歌のうまにたててあつた海にうまのまのま
みうけのまのうまにたててあつた海にうまのまのま

寶治二年百首

後九条門左衛門

兼中御定歌のうまにたててあつた海にうまのまのま
貞和二年洞院橋政歌百首

光厳元年入左橋政

兼中御定歌のうまにたててあつた海にうまのまのま

洞院橋政

兼中御定歌のうまにたててあつた海にうまのまのま

中務卿

中務卿

兼中御定歌のうまにたててあつた海にうまのまのま
建保二年和歌一首

美のまゝのりり海のくさ
枝多野茂也歌
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

百首中

昨日
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

百首中

萬
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

文治二年五社百首

あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

千五百首

あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

遠保三年

あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

千五百首

あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

太神文

あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

百首中

新後撰
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

遠久元年

あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ
あまのまゝのりり海のくさ

あまのまゝのりり海のくさ

承久元年十首下巻中野陸産

新拾春上
まはらけのうらみのさゆ川ころしのゆらゆらりなれど行

貞和二年百首中野院攝政

春日かきつきのゆらゆらりしてまはらけのさゆ川

河院攝政の百首産 民部卿

梓ららるるまはらけのさゆ川さゆのゆらゆらりなれど

建保三年百首中野院攝政

中野院の定規

まはらけのさゆ川さゆのゆらゆらりなれど

後二位攝政

わさみり産のゆらゆらり海にまはらけのさゆ川

承久二年百首中野院攝政

光の産のゆらゆらり

しじら山はるのゆらゆらり中野院のさゆ川

延長十二年百首中野院攝政

右京興

ふらふらとまはらけのさゆ川さゆのゆらゆらりなれど

東集
まはらけのさゆ川さゆのゆらゆらりなれど

まはらけのさゆ川さゆのゆらゆらりなれど

中野院の百首

まわりの香をばらけしめたるの松原よすまの川なり

ふた百萬巻合

檜 寂澤 年事 法原

まよひのあまのひりまきれはなほまろくはなは

家百首

部 卿 氏 乃 家 卿

梓りたるいさりのおもひりりりりりりりりりりりり

かすの御二平一四首

曰

まろくろの神をかりしひねがわしきまのあまの

文意元平七社百首

曰

まはるの衣けりすまろくろのまろくろのまろくろ

延暦二年内裏の御合の御

若のそろくろのまろくろのまろくろのまろくろのまろくろ

百首 今 山 五 首 中

在 京 内 記

まの柳のうろくろけりてまろくろのまろくろのまろくろ

平定定丁まろくろ十首

香 塚 乃 御 名

まろくろのまろくろのまろくろのまろくろのまろくろ

正 五 年 一 萬 社 十 首 今 海 色 記 處

くろくろのまろくろのまろくろのまろくろのまろくろ

あえ 年 百 首 記 處

まろくろのまろくろのまろくろのまろくろのまろくろ

あえ二年一畑田歌 日

まゝとららのうまのしんじりまゝとららのうまのしんじり

廣らら代

おんまら

絶回と

おんまらとららのうまのしんじりまゝとららのうまのしんじり

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

清浦の信

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

階祐の信臣佐吉社合一まの山夜

信正信正御

作保娘のうまのしんじりまゝとららのうまのしんじり

家業の信中

後祐の信

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

治暦三年三月五日信正澄子歌合

源孝總

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

百首の信歌

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

あまの信正澄子辨のあなまの信正澄子

寂蓮寂蓮の信

ふのこいぢりあつちあつちりてうすもだじつあつちり

洞院橋政歌百首彦 俊成の女

ゆりあつちあつちりてうすもだじつあつちり

三百字百首彦合 かつら内大臣

はなさうとまじりてうすもだじつあつちり

西條三年百首彦 月

あつちりあつちりてうすもだじつあつちり

あつちりあつちり

あつちりあつちりてうすもだじつあつちり

あつちりあつちり

あつちりあつちりてうすもだじつあつちり

あつちりあつちり

あつちりあつちりてうすもだじつあつちり

あつちりあつちり

あつちりあつちりてうすもだじつあつちり

あつちりあつちり

あつちりあつちりてうすもだじつあつちり

あつちりあつちり

あつちりあつちりてうすもだじつあつちり

あつちりあつちり

冬みちのくちまきまの湯のうらぐすこきりしまづこれ開雲路みそ

百首歌

同イ

やのくことすこは神のくねる白まじりてあまのくねる波

征古社百首歌

同イ

物産棚川かきみかきみたぢひく桐の枝よつこくちやのねま

元久元年 詩歌 水御 合名あまらま

は久我をゆまは

里人のいぬの神せやきくさるのうすくたよとひぬ井てのきく

後三位保子

河原のうらぐすこは神のくねる白まじりてあまのくねる波

あまの

をくそつうぬいのよと絶たふようすこきりしまづこれ開雲路みそ

かはちみ

弘長元年 百首 征古社

物産棚川かきみかきみたぢひく桐の枝よつこくちやのねま

水若宮 合名あまらま

祝成成

物産棚川かきみかきみたぢひく桐の枝よつこくちやのねま

はるの院下

物産棚川かきみかきみたぢひく桐の枝よつこくちやのねま

はるの院下

後二佐家階々

まらねんさなる氷うちらりてそすこそらるるまのこころ
停揚のうらみうらみと海音のうらみと

おのり人

家集上
流すことあまの雲はなつる後りにうらみと

二千五款字一介一花照耀はま衣

前中納言定家

梅うえのうらみと白ひらうすうしうすことわらふまの衣よ

五百首御歌
はるね院の衣

あめたますこととらりての心うらみとけりすこととらりての心

美川守中

後九条門下

かきしめぬらの霞よりうらみと神とやけり衣なりん

お禊二年十首介合納言

美の衣乃ゆらうすこととらりての衣なりん

弘長二年一之湯山百首
安永門院四條

世よめりよりこの衣とらりての衣なりん

建保三年名百首
正二位左大臣

依保娘にうらみとらりての衣なりん

千首介

民部
内出

うらみめのうらみとらりての衣なりん

歌ふ者 立極五 よもしくあつて

新勅春上

他保姫のとりけりうすまはつてけりすことらむらさきの

袖中十九

山鹿漸近多

仲実親信

あすの又もちやまけん書にぬいづるのけはれは

歌集まきまのち

あまのこ

山里ののりゆきと給うれしうすまはつてけりすことらむらさきの

百首之震

保仲

はつともいおちらにうすまはつてけりすことらむらさきの

歌集末震之

後二信

さちゆきうすまはつてけりすことらむらさきの

寛政二年廿八日 山鹿漸近

西園寺の入るをぬき

まはつてけりすことらむらさきの

四季百首之震 善法親王

まのまはつてけりすことらむらさきの

百首之中

は九条門外

浦人のこころすまはつてけりすことらむらさきの

天保元年百首

民部の御

わづらひをたのめむとてけりすことらむらさきの

同二年百首海震

日

須磨 かすみのころも
次乃蛇の夜に夜しつらうしつらうしつらうしつらう

あまふまふの中 徳二位あまふま

ひしきせむれ乃わけあつたふてあつたふてあつたふてあつた

連保二年内裏の御入合の御成

順徳 非法院の御

ひしきせむれ乃わけあつたふてあつたふてあつたふてあつた

あまふまふの中

まのまの浅原の早れあつたふてあつたふてあつたふてあつた

仲家 舊年立春 堀河次郎百首

あつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつた

あつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつた

あつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつた

寛治二年百首あつたふてあつたふてあつたふてあつた

あつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつた

はるかに院の御

あつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつた

あつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつた

あつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつた

文永五年毎月

あつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつたふてあつた

〜〜〜
猶え

日七年 毎百一首中

日

〜〜〜

日九年 毎百一首中

日

〜〜〜

建長三年 毎百一首中

日

〜〜〜

貞應三年 毎百一首中

日

〜〜〜

家集

〜〜〜

子首

日

〜〜〜

百首

日

〜〜〜

建保三年 毎百一首中

信正

〜〜〜

治長元年 毎百一首中

信長

〜〜〜

寛治三年 毎百一首中

年

残

凡春上

六百首方合宛々 亦中初之定宛々
予あはたてたあつ書にあつあらせてらる物物あつらつりついでに

お大初之兼書宛々

日ける

まゝそしてたつひへつてあま重重の覧覧乃あは書つれしな

老若

はあ五十首方合

各在法雅經々

言清ぬひし山れうあまたあまとして子もたにわらふあつあつ波

永久四年百首宛々

仲實宛々臣

堀後百

まゝそつてつ書あまの米三くつた冬あまもつとつてつ書あまの宛々

白舌書宛々肥後

まゝわつと書のあまわつとあまわつとつてつ書あまの宛々

殘書 三行分トル

文治二年百首宛々

亦中初之定宛々

あゝあゝつとわらうつにわつ入してうつれりつとつてつ書あまの宛々

えの宛々つ入る按段宛々百首宛々

兼法和宛々

まの書あまれあま横あまへあまつてつ書あまの宛々

亦兼宛々外書

大初之宛々

まのひつとつてつ書あまの宛々

亦兼宛々二百首宛々

亦兼宛々

つとつてつ書あまの宛々

新保二年二月陽明門院あふ文合

高階政業

くら門の家のあつてきえぬしこりくくはぬあふ

堀河院御首

其後

清のさゆ白くんのさうきふま年の花とよぬ

文子元年七社百善民の由家御

まかぬじむらひのゆふとあはれいさくあふ

三言
ま氷

家業池有波と氷意用前中納言近房

袖ひら池の氷さうらけそむりのあやの波そらけ

同日暖人用物

大宰大貳らるる

ふらうまぬけさけけよらうらうのさ人そり

遠長八年百首あ合 前大納言近房

まらんさうらりのうすひよとそゆさ川の水

家業古今一首 位二位家澄

くらあふのさう浪まうらうらふ池のさ

家業

まよと氷とあさの池のわさけいさ波そ

家業まふ文仲

源有仲

物自さうまふ山門のうすまらうらさけさゆら

三百五十四首中

好忠

家集

我名は板井のあつむらじへん去年はつらゆの夜をこく

万代雑二

禊

後子月就まはせり谷池水三首跋

茂忠

くすねあつむらじへんからけり池のつらゆをこく

三行

富指

くすねあつむらじへんからけり池のつらゆをこく

かせ

氷

ほ

くすねあつむらじへんからけり池のつらゆをこく

東 東門のせしつら果ねくすねあつむらじへんからけり池のつらゆをこく

若水

源仲心

美凡はあつむらじへんからけり池のつらゆをこく

百首歌

即合の家御

あつむらじへんからけり池のつらゆをこく

達仁えのつら果の五十首あ合

後二位源隆白

あつむらじへんからけり池のつらゆをこく

達保四首一百首

名取源隆白

あつむらじへんからけり池のつらゆをこく

あつむらじへんからけり池のつらゆをこく

名取源隆白

あつむらじへんからけり池のつらゆをこく

雪のふりしほらいさあふ
寂草 年事いし草
後二位お階台
氷かな

風春上
けいかせ
後京極格改
氷かな

木のおらり日かやまはもすん松の雪のゆたは波
百首風上
院院

風春上
草 4
三草
六百首
後京極格改

新後拾遺春上
若法師有

霜
前中納言
草

鳥戸之平百首
部御
御

あまの
御
御
御

源
御
御
御

あつちののり歌 源順

うらまへん^菊もあつちののり^{かな}もあつちののり

和保三年二月西門院中より為る合^草源順

よこく^{かな}

あつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}

あつちののり

西門院中より為る合

あつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}

あつちののり

あつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}

あつちののり

第

和保三年百首表^草 正二位^草

あつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}

後醍醐天皇

あつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}

あつちののり

あつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}

建永八年百首表^草 正二位^草

あつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}もあつちののり^{かな}

和保三年百首表^草 後醍醐天皇

吉野の *Shirayama* ^早 *Shirayama* ^草 *Shirayama* ^え

達也十年 ^編 達也十年 ^編 達也十年 ^編

漢 ^漢 *Shirayama* ^漢 *Shirayama* ^漢 *Shirayama* ^漢

多 ^多 *Shirayama* ^多 *Shirayama* ^多 *Shirayama* ^多

の ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の

高 ^高 *Shirayama* ^高 *Shirayama* ^高 *Shirayama* ^高

の ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の

達也二年 ^達 達也二年 ^達 達也二年 ^達

ま ^ま *Shirayama* ^ま *Shirayama* ^ま *Shirayama* ^ま

前 ^前 *Shirayama* ^前 *Shirayama* ^前 *Shirayama* ^前

後 ^後 *Shirayama* ^後 *Shirayama* ^後 *Shirayama* ^後

新 ^新 *Shirayama* ^新 *Shirayama*

の ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の

人 ^人 *Shirayama* ^人 *Shirayama* ^人 *Shirayama* ^人

の ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の

文 ^文 *Shirayama* ^文 *Shirayama* ^文 *Shirayama* ^文

ま ^ま *Shirayama* ^ま *Shirayama* ^ま *Shirayama* ^ま

古 ^古 *Shirayama* ^古 *Shirayama* ^古 *Shirayama* ^古

の ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の *Shirayama* ^の

三 ^三 *Shirayama* ^三 *Shirayama* ^三 *Shirayama* ^三

行 ^行 *Shirayama* ^行 *Shirayama* ^行 *Shirayama* ^行

同 ^同

同 ^同

天木和歌抄 卷第二 終

五月の夜にのぞきしつらかりての夜にのぞきの一編
 同一年毎日の一首 同一年毎日の一首
 下巻の歌集のたしなむこと 第一の巻のたしなむこと
 同一年毎日の一首 同一年毎日の一首
 思入の歌集の百首 橘巻業
 秋油の歌集のたしなむこと 第一の巻のたしなむこと
 たり

平
 萬
 千
 万
 人丸

遠保三年一也
 千五百首
 後鳥羽院
 池のわきたより

遠保三年一也

後鳥羽院

遠保三年一也
 千五百首
 後鳥羽院
 池のわきたより



